

障害の有無に関わらず、誰もが暮らしやすいまちへ

様々な手段で心をつなぐ **コミュニケーション** **～少しの工夫でできること～**

閤障害福祉室 ☎727・9506 FAX727・3539

日本人の約11人に1人が何らかの障害を持っており、日常生活の中で、さまざまな困難に直面しています。そんなときに支えになるのは、周囲の配慮や手助けであり、その第一歩となるのがコミュニケーションです。私たちの少しの工夫が、障害のあるかたとのスムーズなコミュニケーションにつながります。この機会に“心をつなぐコミュニケーション”について考えてみてください。

また、障害のあるかたとのコミュニケーションに役立つ要約筆記、音訳、手話などのサークル活動やボランティア活動が、地域で盛んに行われています。どの活動も初心者大歓迎です。興味があるかたはぜひご参加ください。



障害に合わせた“少しの工夫”が、スムーズなコミュニケーションにつながります

視覚障害があるかた



- 相手に触れずに、正面から声をかける
- 方向や距離を具体的に説明する
- 誘導するときは、相手に自分のひじや肩を持ってもらう

聴覚障害があるかた



- 紙に書いたり、スマホに打ち込んだ文字を見せて伝える
- 口の動きや表情を見せながら、ゆっくり話す
- 身振り手振りを交えて話す

理解力・記憶力に障害があるかた



- 具体的な言葉で、簡潔に話す
- イラストや写真を交えて要望を聞く、説明する
- 相手のペースに合わせてゆっくり話す

上記で紹介しているのは一例で、他にもさまざまな障害に合わせた工夫があります。困っている人を見かけたら、まず声をかけ、相手の話をよく聞いて、「何が必要なのか」を確認しましょう。

障害のあるかたとのコミュニケーションに役立つ! 地域のサークルやボランティアグループの活動にぜひご参加を!



箕面要約筆記サークル「もみじ」

代表 占部のぞみさん(写真左)、鈴木七瀬さん(写真右)

会議や講演会などの場で、音声で文字にして伝えています。リアルタイムで分かりやすい文章にすることは難しいですが、難聴のかたのお役に立てる喜びがあります。話に遅れずに伝えられたときは、爽快感や楽しさも味わえます。お気軽に見学にお越しください。



音訳ボランティアグループ「ささゆり声の会」

会長 佐茂栄子さん

市の情報など、活字情報を正確に分かりやすく音声にして、視覚障害者の「読むこと」をお手伝いしています。障害者福祉センターささゆり園で毎年開催される音訳講習会などを通して、初めてのかたも気軽に音訳を学べます。やりがいや喜びも多いので、みなさんもぜひご参加ください。



手話サークル「にじ」「あお」「たき」

「にじ」代表 内海美穂さん

手話言語を通じて聞こえない、聞こえにくいかたたちと楽しく交流ができると、とてもやりがいを感じます。市内には「にじ」「あお」「たき」の3つの手話サークルがあります。手話言語の魅力に触れてみませんか。ぜひお気軽に見学ください。

障害のあるかたの「声」

箕面難聴者サークル木かげ

代表 谷口学さん

要約筆記を知り、仲間と笑い合えたことで、自分の障害を受け入れることができました

私は元々音が聞こえていましたが、徐々に“言葉として理解できない難聴”になっていきました。その変化で友人や同僚との会話が辛くなり、自分を「透明人間」のように感じるようになりました。そんな中、SNSで同じ悩みを持つ仲間と出会い、要約筆記を知って会話の輪に入れたことが、自分の障害を受け入れるきっかけになりました。仲間と笑い合える経験は、障害を持つかたの大きな励みになると思います。



各サークルやボランティアグループの活動について、詳しくは障害福祉室(☎727・9506 FAX727・3539)へご連絡ください。